

縣下九州一般共強烈なる地震  
ありたり実に近年稀なる大地震なり

科博NEWS展示

# 『1889年明治熊本地震』

## -130年前に始まった地震被害調査-

令和元年

7/23(火)〜1(日)

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は火曜日)  
7月29日及び、8月5、12、13、19、26日は開館。

国立科学博物館 [東京・上野公園]

日本館1F南翼

開館時間

午前9時～午後5時

金・土曜日は午後8時まで

※入館は各閉館時刻の30分前まで

入場料

常設展示入場料のみでご覧いただけます。

常設展示入館料

一般・大学生 620円(団体500円)

高校生以下および65歳以上無料

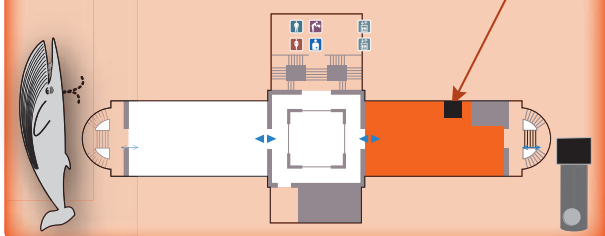
※団体は20名以上

〈主催〉国立科学博物館

上野公園



展示会場:日本館1F南翼



JR上野駅

## 科博NEWS展示の概要

# 『1889年明治熊本地震』 -130年前に始まった地震被害調査-

1889年(明治22年)7月28日に熊本県で大きな被害をもたらした地震が発生してから、今年で130年となります。

日本において「地震学」が始まってから、初めて本格的な被害調査が行われた地震です。本展では、当時の写真や調査ノートなどの資料を展示し、パネル解説で紹介します。

## 日本で最も古い地震被害写真

熊本市に今も残る富重写真所の初代写真師だった<sup>とみしげりへい</sup>富重利平が、熊本県の依頼で撮影しました。20枚の写真が理科大学地震学教室(現在の東京大学)に残っていましたが、そのうち11枚が写真帖として綴じられ、のちに国立科学博物館の所蔵となりました。石垣の崩壊や家屋の倒壊など、被害の大きさをうかがい知ることができます。熊本城飯田丸の石垣は、2016年(平成28年)の熊本地震でも崩壊しました。

### 熊本震災写真帖

[所蔵：国立科学博物館]



### 旧熊本城飯田丸

[第六師団弾薬庫上石垣崩壊]



### 旧熊本城西出丸

[第六師団火薬庫崩壊]



### 飽田郡高橋町字川端

[家屋崩壊]



## 現地調査ノート

熊本県は地震後、専門家の派遣を政府に依頼し、帝国大学(現在の東京大学)で世界初の地震学教授となった<sup>せきやせいげい</sup>関谷清景と物理学講師(実験指導嘱託)<sup>ながおはんたろう</sup>だった長岡半太郎は、現地調査に向かいました。長岡は、熊本へ到着するまでの日記や現地調査の様子を書いたノートを残しています。

### 長岡による調査ノート

[所蔵：国立科学博物館]



## 錦絵

地震発生から数日後、熊本の大地震の状況を伝える錦絵が、東京で発行されました。瓦版の役割を持っていたと思われます。

[所蔵：国立科学博物館]



### 〈交通ガイド〉

JR「上野駅」公園口から徒歩5分  
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分  
京成電鉄「京成上野駅」から徒歩10分

※館内に駐車場および駐輪場はございません。

